

【 設問アプローチ 】

[16 - B]

問1 : ① [設問チェック] 傍線部と 〈 同じ 〉 漢字を選ぶ問題であることを把握する。

② [アプローチ] 本文読解の際、傍線部に差し当たってその語句に適切な漢字を文脈を参考にしながら判断し、本文の空いているところにメモしておく。

③ [設問読解] 本文を一通り読み終えてから、改めて設問文を確認し問題を解く。
②を踏まえて、選択肢から傍線部と同じ漢字を使用する語句を、解答として選ぶ。

問2 : ① [設問チェック] 傍線部について、〈 内容説明 〉 が求められていることを把握する。

② [本文読解 I] 傍線部①の直前に「つまり」とあることから、傍線部①は傍線部①までの内容の要約であることが分かる。つまり、傍線部①までの内容が、設問読解の〈 根拠 〉となる傍線部の〈 内容説明 〉であることが考えられる。

③ [本文読解 II] ②を踏まえて、本文の内容を確認すると、12行目に「再読と記述の追加とは、-」という〈 言葉の定義付け 〉がある。そして、その内容を受けて傍線部①を含む14行目からの段落が「というのも、」で始まっていることが理解される。

また、15行目には「保存するということは、-」という〈 言葉の定義付け 〉があり、20行目 ～ 22行目にその具体例が示され、次いでその内容を受けて傍線部①がある。

④ [設問読解] ③から、文構造を踏まえて〈 根拠 〉中の内容の要点をまとめると、「日記の本質」に加えて、日記における保存とは何か、その「保存の目的」について言及されていることが掴める。

以上を踏まえて、本文中の要点をそれぞれ〈 根拠 〉とし、その内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [設問チェック] 傍線部中に「ここにも」とあることから、指示語の指示内容を明らかにすることが必要になる。

また、「原理」と「作動」というキーワードがあり、これらについての〈 内容説明 〉が求められていることを把握する。

- ② [本文読解 I] 傍線部②を含む37行目の段落から〈意味段落〉が変わり、「日記の発達」が話題になっていることを掴む。

そして、傍線部②を含む一文が39行目の「自己の内面を日記に綴るということは、-」という〈言葉の定義付け〉による内容説明に続く部分であることを読み取る。

- ③ [本文読解 II] ①で確認した読解のポイントを、本文中から確認する。
(1) 傍線部中の「ここにも」は、直前の42行目「収集」を指している。
(2) 「原理」は文脈から読み解くと、40行目の「資本主義，他方で個人主義という，ともに近代ヨーロッパのコンカンをなすとも言うべき考え方」の言い換えになっている。
- ④ [設問読解] ③を踏まえて傍線部②の〈内容説明〉をまとめると、
「収集活動においても、自己の内面を日記に綴ることと同じように、その根幹には資本主義や個人主義の考え方が作動(＝機能)している」ということになる。

以上を踏まえて、内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

- 問4 : ① [設問チェック] 傍線部について、〈内容説明〉が問われていることを把握する。
その上で、傍線部の内容を本文中から明らかにするためのポイントを確認する。
(1) 「こうした」の指示内容。
(2) 「縮図」の内容説明。

- ② [本文読解 I] 傍線部③中の「こうした」の指示内容を確認する。
文脈から、67行目の「自己目的化あるいは自己疎外」が「こうした」の指示内容であることが分かる。
また、「自己目的化あるいは自己疎外」の直前に「この」という指示語があることから、この指示内容も明らかにする必要がある。「この」は、66行目の「向上のための自己の記録が、自己というものに執着し沈潜する日記」を指している。

以上のことから、傍線部③の「こうした逸脱」がどのような逸脱であるのかの〈内容説明〉は66行目～68行目の辺りにあり、この部分が1つめの〈根拠〉になる。

- ③ [本文読解 II] 次に傍線部③中の「縮図」の〈内容説明〉を確認する。
文脈を確認すると、傍線部③の内容を受けた次の一文が「たとえば、」で始まっていることが分かる。つまり、傍線部③の〈内容説明〉が傍線部③以降の部分にあることが〈予測〉される。

70行目の「たとえば、」以降の内容を確認すると、74行目に「要するに」とあり、この前後の内容がこの部分の要点であることが読み取れる。

以上のことから、70行目～77行目が傍線部③、特に「縮図」の〈内容説明〉であり、この部分を設問の2つめの〈根拠〉として考えることができる。

- ④ [設問読解] ②、③で確認した〈根拠〉を踏まえて、内容を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、「筆者の日記に対する考え方」が問われていることを把握する。

その上で、傍線部の内容を本文中から明らかにするためのポイントを確認する。

(1) 「苦渋」とは、どのようなものか。

(2) 「楽しみ」とは、どのようなものか。

② [本文読解] 傍線部④を含む78行目から〈意味段落〉が変わっていることを把握する。
この〈意味段落〉は、本文全体の「まとめ」の位置づけにあり、「保存」という側面での「日記の本質」について筆者の考えが提示された部分になる。

まず、79行目に「日記は、-」という〈言葉の定義付け〉があり、ここで日記が「保存装置」であるということが言及されている。

そして、続く81行目の辺りから「保存装置」としての日記がどのようなものであるのかが、「迷路」、「自由」、「解法」、「牢獄」、「想像力」などの表現を用いて説明されている。

それぞれの表現のニュアンスを文脈から読み取ることで、これらの表現が①で確認した傍線部のポイントについて、〈筆者の考え〉を示した内容であることが読み取れる。

(1) 「苦渋」 → 「迷路」、「牢獄」

(2) 「楽しみ」 → 「自由」、「解法」、「想像力」

③ [設問読解] ①、②を踏まえて本文の内容を適切に説明した選択肢を、解答として選ぶ。

問6 : ① [設問チェック] 設問文から、設問が特定の部分ではなく本文全体から〈根拠〉を求める問題であることを把握する。

また、適当な内容を選択肢から〈二つ〉選ぶということにも注意しておく。

→ [アプローチ] 本文全体から〈根拠〉を求める設問では、

先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。

② [本文読解] 設問文で問われていた「筆者の主張」に特に注意して、
内容の要点にチェックをしながら本文全体を通して読解する。

③ [設問読解] ①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし合わせて、適切な選択肢文を吟味する。

この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけではなく、文章の流れも正しく汲んだ内容説明になっているかを確認する。